

一般社団法人 川口青年会議所
第 185 回通常総会 資料



2026年9月5日（土） 14時00開会
埼玉県産業技術総合センター 4A・4B会議室

一般社団法人 川口青年会議所

第 185 回通常総会 次第

日 時：2026 年 9 月 5 日(土)

開 会：14 時 00 分 閉会 16 時 00 分

会 場：埼玉県産業技術総合センター
4A・4B 会議室

運営担当：総務広報委員会

司 会：飯野 栞 君

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 点鐘 | 第 62 代理事長 中村 光彦 君 |
| 2. 開会宣言 | 境 友梨 君 |
| 3. 国歌斉唱 | |
| 4. J C ソング斉唱 | |
| 5. J C I C r e e d 唱和 | 小貫 好弘 君 |
| 6. J C I M i s s i o n 並びに J C I V i s i o n 唱和 | 深井 一輝 君 |
| 7. J C 宣言文朗読並びに綱領唱和 | 瀧田 弘文 君 |
| 8. 関東地区宣言唱和 | 佐々木慎平君 |
| 9. オブザーバー紹介 | |
| 10. 理事長挨拶 | 第 62 代理事長 中村 光彦 君 |
| 11. 3 分間スピーチ | 佐々木慎平君 |
| 12. 正会員認証 | |
| 13. 会員慶事 | |
| 14. 次年度理事長予定者への当選証書授与 | |
| 15. 推薦人スピーチ | |

～レイアウト変更～

16. 議事
1. 議長の選出
 2. 資料の確認及び定足数の確認
 3. 議事録作成者及び署名人の指名
 - 4-1. 除名者（案）承認に関する件
 - 4-2. 2026 年度補正収支予算書(案)承認に関する件
 - 4-3. 2027 年度理事 伊藤 孝弘 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-4. 2027 年度理事 小松 将人 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-5. 2027 年度理事 飯嶋 大祐 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-6. 2027 年度理事 廣瀬 大志 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-7. 2027 年度理事 大山 涼太 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-8. 2027 年度理事 古澤 駿 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-9. 2027 年度理事 坂口 安那 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-10. 2027 年度理事 土井 彩加 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-11. 2027 年度理事 内田 爽 君 選任(案)承認に関する件
 - 4-12. 2027 年度理事 飯野 栞 君 選任(案)承認に関する件

- 4-13. 2027 年度理事佐々木 慎平 君 選任(案)承認に関する件
- 4-14. 2027 年度理事 飯塚 佳佑 君 選任(案)承認に関する件
- 4-15. 2027 年度理事 朴 澤楠 君 選任(案)承認に関する件
- 4-16. 2027 年度直前理事長兼監事 中村 光彦 君 選任(案)承認に関する件
- 4-17. 2027 年度監事 永井 光義 君 選任(案)承認に関する件
- 4-18. 2027 年度監事 赤羽 孝太 君 選任(案)承認に関する件
- 4-19. 2027 年度理事長候補者選出(案)承認に関する件
- 4-20. 2027 年度組織図(案)承認に関する件

～レイアウト変更～

17. 次年度役員紹介

18. 出向者報告

19. 連絡報告事項

20. 次回例会案内

21. 出席率並びにニコニコ BOX 発表

22. 監事講評

23. 若い我等斉唱

24. 閉会宣言

25. 点鐘

会員研修委員会

佐々木慎平君

監事 永井 光義 君

境 友梨 君

第 62 代理事長 中村 光彦 君

審議 - 1 一般社団法人川口青年会議所
除名者（案）承認に関する件

除名承認に関する件

除 名 者 荒川 光

入 会 2025年7月
生年月日 平成3年11月24日

除名理由 定款第10条第1項第1号
内 容 2025年度後期会費納入義務不履行（72,000円）
2026年度前期会費納入義務不履行（72,000円）

除名承認に関する件

除 名 者 大場 直人

入 会 2 0 2 5 年 4 月
生年月日 平成 7 年 8 月 1 5 日

除名理由 定款第 1 0 条第 1 項第 1 号
内 容 2 0 2 5 年度後期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）
 2 0 2 6 年度前期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）

除名承認に関する件

除 名 者 木曾 健太郎

入 会 2 0 2 5 年 5 月
生年月日 平成 7 年 7 月 1 7 日

除名理由 定款第 1 0 条第 1 項第 1 号
内 容 2 0 2 5 年度後期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）
 2 0 2 6 年度前期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）

除名承認に関する件

除 名 者 佐藤 一将

入 会 2 0 2 5 年 7 月
生年月日 平成 3 年 7 月 4 日

除名理由 定款第 1 0 条第 1 項第 1 号
内 容 2 0 2 5 年度後期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）
 2 0 2 6 年度前期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）

除名承認に関する件

除 名 者 松原 樹

入 会 2 0 2 5 年 7 月
生年月日 平成 5 年 8 月 1 7 日

除名理由 定款第 1 0 条第 1 項第 1 号
内 容 2 0 2 5 年度後期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）
 2 0 2 6 年度前期会費納入義務不履行（7 2, 0 0 0 円）

審議 - 2 一般社団法人川口青年会議所

2026 年度 補正収支予算書（案）承認に関する件

一般社団法人川口青年会議所 補正収支予算書(案)計画方針

(2026年1月1日～2026年12月31日)

収入の部

1	受取入会金の増減	2025年度7月までの入会者増加に伴う変更。
2	新入会員受取会費の増減	2026年度7月までの入会者増減に伴う変更。
3	登録料収入の増額	2026年度7月までに事業報告の終わった事業の決算確定および参加人数の変更に伴う変更。
4	寄付金収入の増額	5月第一例会における寄付金の受領に伴う変更。

支出の部

1	事業費の増減	2026年度7月までに終了している事業報告及び事業計画に伴った変更。 ※下記に内訳有り
2	諸会費の増額	2026年度7月までの入会者増減に伴う変更。
3	関東地区負担金の増額	2026年度7月までの入会者増減に伴う変更。
4	埼玉ブロック負担金の増額	2026年度7月までの入会者増減に伴う変更。
5	雑誌購読料の増額	2026年度7月までの入会者増減に伴う変更。

事業費の増減内訳

1	会員拡大特別会議	決算済)3月例会 -121,392
		予算250,000に対し、決算128,608となったため減少
		計画済)7月例会 -145,150
		予算235,150に対し、計画議案で90,000となったため減少
2	青少年育成委員会	決算済)5月例会関連 +558,105
		予算810,000に対し、決算1,368,105となったため増加
		計画済)8月例会 -157,000
		予算250,000に対し、計画議案で93,000となったため減少
3	会員研修委員会	決算済)1月例会 -27,000
		予算350,000に対し、決算323,000となったため減少
		計画済)9月例会 -88,000
		予算350,000に対し、計画議案で262,000となったため減少

1. 収益の部					
受取入金金	約33%拡大	30,000	×	22名(正会員承認見込数)	660,000 660,000 680,000
受取会費					
正会員会費		144,000	×	56名	#####
		144,000	×	0名(休会者、育児休暇)	0
		72,000	×	0名(前期退会者)	0 8,064,000
		144,000	×	0名(後期退会者)	0
新入会員会費 12,000/月		144,000	×	0名(1月入会)	0
		120,000	×	0名(2月入会)	0
		108,000	×	2名(3月入会)	216,000
		96,000	×	0名(4月入会)	0
		84,000	×	2名(5月入会)	168,000
		72,000	×	4名(6月入会)	288,000 1,236,000
		60,000	×	6名(7月入会)	360,000
		48,000	×	2名(8月入会)	96,000
		36,000	×	2名(9月入会)	72,000
		24,000	×	1名(10月入会)	24,000
		12,000	×	1名(11月入会)	12,000
特別会員会費収入		30,000	×	3名(2025年度卒業者)	90,000 90,000
賛助会員会費収入					0 0
シニアクラブ					##### 1,500,000
賛助会員					0 0
その他					0 0
					10,890,000
事業収入					
登録料収入					
1月第一例会		36,300	×	1	36,300
4月第一例会		1,810	×	1	1,810
5月第一例会		2,000	×	37名(おとな)	74,000
		1,000	×	41名(子ども)	41,000
		2,200	×	9名(新しい道(Roots代))	19,800
		2,200	×	1名(緒苗代町会議員 長友様)	2,200
		1,000	×	22名(LOMメンバー)	22,000
					197,110
受取寄付金					
寄付金収入 青少年育成委員会 5月例会		270,600	×	1一般社団法人新しい道 田穂えき事業協賛金	270,600 270,600
協賛金収入					0 0
					270,600
雑収入					
受取利息収入		14	×	1	14 14
その他雑収入	川口青年経済人連絡協議会事務局委託費	10,800	×	12ヶ月	129,600 129,600
	自動販売機設置料	8,470	×	1	8,470 8,470
					138,084
(小計) 収益合計					12,158,794
2. 費用の部					
事業費					
	1. 会員拡大特別会議				233,458
	2. 青少年育成委員会				#####
	3. 総務広報委員会				10,000
	4. 会員研修委員会				##### 3,439,563
	5. 副理事長				150,000
	6. 専務室				150,000
					3,439,563
管理費					
通信・発送費	案内発送費 通信費等				120,000 120,000
消耗品費	事務局内消耗品 印刷費				370,000 370,000
賃借料	事務局内資料支出(4月以外)	138,529	×	11	#####
	事務局内資料支出(4月のみ)	138,531	×	1	138,531 1,662,350
ホームページ管理・制作	サーバー管理費	1,100	×	12	13,200 13,200
	1. 会員拡大特別会議				40,000
	2. 青少年育成委員会				20,000
	3. 会員研修委員会				20,000
	4. 総務広報委員会				12,300
	5. 総会費支出	25,000	×	3	82,700
	次年度当選証書	7,700	×	1	
水道光熱費		200,000	×	1	200,000 200,000
	1月～12月 985,824円				
	①(基本計算1,141円×4.5h×16日×3ヶ月)	82,152	×	3	246,456
給与手当	1月～12月 985,824円				
	①(基本計算1,141円×4.5h×16日×12ヶ月)	82,152	×	12	985,824 1,369,356
	②残業代 1,141円×3時間×12ヶ月	41,076	×	1	41,076
	③駐車場代 500円×16日×12ヵ月	8,000	×	12	96,000
	雑費				200,000 200,000
	広報費 SNS広報費				415,000 415,000
	渉外費 京都会議	8,000	×	1	8,000 8,000
	慶弔費 結婚・出産お祝い、香典等	10,000	×	3	30,000 30,000
	税理士10,000×12月分	10,000	×	12ヵ月	120,000
事務委託費	社労士6,600	6,600	×	1	6,600 146,600
	司法書士20,000	20,000	×	1	20,000
	川口青年経済人連絡協議会(4月1日の会員数)	1,700	×	59名	100,300 245,300
	諸会費				
	諸団体事業協賛金	145,000	×	1	145,000
手帳作成費	現役56+新入20+シニア280+予備34	869	×	390冊	338,910 338,910
JCI負担金		2,145	×	56名	120,120 163,020
	①基本額	2,145	×	20名(年間新入会員)	42,900
	②付加金	30,000	×	1	30,000
		5,000	×	56名(継続会員)	280,000
日本JC負担金		5,000	×	12名(前期新入会員)	60,000 474,000
		2,500	×	8名(後期新入会員)	20,000
	未来の青年会議所を創る協力金	1,500	×	56	84,000
	①基本額	10,000	×	1	10,000
関東地区負担金		1,000	×	56名(継続会員)	56,000
	②付加金	1,000	×	4名(前期新入会員)	4,000
		20,000	×	1	20,000
埼玉ブロック負担金		6,000	×	56名(継続会員)	336,000 380,000
		6,000	×	4名(前期新入会員)	24,000
		1,825	×	56名(継続会員)	102,200 138,700
		1,825	×	20名(前後期新入会員)	36,500
日本JC出向者会相金		20,000	×	10名	200,000
	250円/2ヶ月(隔月発行)	1,500	×	56名(継続会員)	84,000
		1,500	×	0名(1月入会)	0
		1,250	×	0名(2月入会)	0
		1,250	×	2名(3月入会)	2,500
		1,000	×	0名(4月入会)	0
		1,000	×	2名(5月入会)	2,000
		750	×	4名(6月入会)	3,000 98,500
		750	×	6名(7月入会)	4,500
		500	×	2名(8月入会)	1,000
		500	×	2名(9月入会)	1,000
		250	×	1名(10月入会)	250
		250	×	1名(11月入会)	250
租税公課 法人税等		160,000	×	1	160,000 160,000
					6,977,936
(小計)費用合計					10,417,499
3. 当期純資産増減額 収益合計－費用合計					1,738,295
以下付属資料 一般社団法人では以下の項目は年度に貸借対照表として作成するため、添付資料とする。					
4. 純資産の部					
期首純資産					3,173,015
当期純資産増減額	(3. 当期純資産増減額と同額)				1,738,295
期末純資産					4,911,310
任意積立金					
		150,000	×	1 2025年分	150,000
		150,000	×	1 2026年分	150,000
	65周年積立金	0	×	1 2027年分	0
		0	×	1 2028年分	0 300,000
					300,000
任意積立金差引 本会計					4,611,310

科目		2026年予算 9月補正予算	2026年予算 1月修正予算	比較増減	小計に占める割合
1. 収益の部					
I. 受取入会金		660,000	600,000	60,000	5.43%
受取入会金		660,000	600,000	60,000	
II. 受取会費		10,890,000	11,226,000	△ 336,000	89.59%
正会員受取会費		8,064,000	8,064,000	0	
新入会員受取会費		1,236,000	1,572,000	△ 336,000	
特別会員受取会費		90,000	90,000	0	
賛助会員受取会費		1,500,000	1,500,000	0	
III. 事業収入		197,110	90,000	107,110	1.62%
登録料収入		197,110	90,000	107,110	
広告料収入		0	0	0	
IV. 受取寄付金		270,600	0	270,600	2.23%
寄付金収入		270,600	0	270,600	
協賛金収入		0	0	0	
補助金収入		0	0	0	
V. 雑収益		138,084	138,084	0	1.14%
受取利息		14	14	0	
その他雑収益		138,070	138,070	0	
（小計）収益合計		12,155,794	12,054,084	101,710	100.00%
2. 費用の部					
I. 事業費		3,439,563	3,420,000	19,563	33.02%
II. 管理費		6,977,936	7,031,836	△ 53,900	66.98%
通信・発送費		120,000	120,000	0	
什器備品費		0	0	0	
消耗品費		370,000	370,000	0	
事務局賃借料		1,662,350	1,662,350	0	
ホームページ管理費		13,200	13,200	0	
会議費		175,000	175,000	0	
水道光熱費		200,000	200,000	0	
給与手当		1,369,356	1,369,356	0	
雑費		200,000	200,000	0	
広報費		415,000	415,000	0	
渉外費		8,000	8,000	0	
慶弔費		30,000	30,000	0	
事務委託費		146,600	146,600	0	
諸会費		245,300	240,200	5,100	
手帳作成費		338,910	338,910	0	
J C I 負担金		163,020	163,020	0	
日本 J C 負担金		474,000	474,000	0	
関東地区負担金		70,000	78,000	△ 8,000	
埼玉ブロック負担金		380,000	428,000	△ 48,000	
国際協力基金		138,700	138,700	0	
日本 J C 出向者負担金		200,000	200,000	0	
雑誌購読料		98,500	101,500	△ 3,000	
租税公課		160,000	160,000	0	
減価償却費		0	0	0	
（小計）費用合計		10,417,499	10,451,836	△ 34,337	100.00%
3. 当期純資産増減額		1,738,295	1,602,248	136,047	
以下付属資料 一般社団法人では以下の項目は年度に貸借対照表として作成するため、添付資料とする。					
4. 純資産の部					
期首純資産		3,173,015	3,173,015	0	
当期純資産増減額		1,738,295	1,602,248	136,047	
期末純資産		4,911,310	4,775,263	136,047	
任意積立金					
65周年積立金 2025年度分		150,000	150,000	0	
65周年積立金 2026年度分		150,000	150,000	0	
合計		300,000	300,000	0	

審議 - 3 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 伊藤 孝弘 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 4 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 小松 将人 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 5 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 飯嶋 大祐 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 6 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 廣瀬 大志 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 7 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 大山 涼太 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 8 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 古澤 駿 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 9 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 坂口 安那 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 10 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 土井 彩加 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 11 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 内田 爽 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 12 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 飯野 栞 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 13 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 佐々木 慎平 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 14 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 飯塚 佳佑 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 15 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事 朴 澤楠 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 16 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度直前理事長兼監事 中村 光彦 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 17 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度監事 永井 光義 君 選任（案）承認に関する件

審議 - 18 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度監事 赤羽 孝太 君 選任（案）承認に関する件

2027年度 役員

役 職 名	氏 名
理 事	伊藤 孝弘
理 事	小松 将人
理 事	飯嶋 大祐
理 事	廣瀬 大志
理 事	大山 涼太
理 事	古澤 駿
理 事	坂口 安那
理 事	土井 彩加
理 事	内田 爽
理 事	飯野 栞
理 事	佐々木慎平
理 事	飯塚 佳佑
理 事	朴 澤楠
直前理事長 兼 監事	中村 光彦
監 事	永井 光義
監 事	赤羽 孝太

審議 - 19 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度理事長候補者選出（案）承認に関する件

(様式3)

経 歴 書

氏 名 伊藤 孝弘

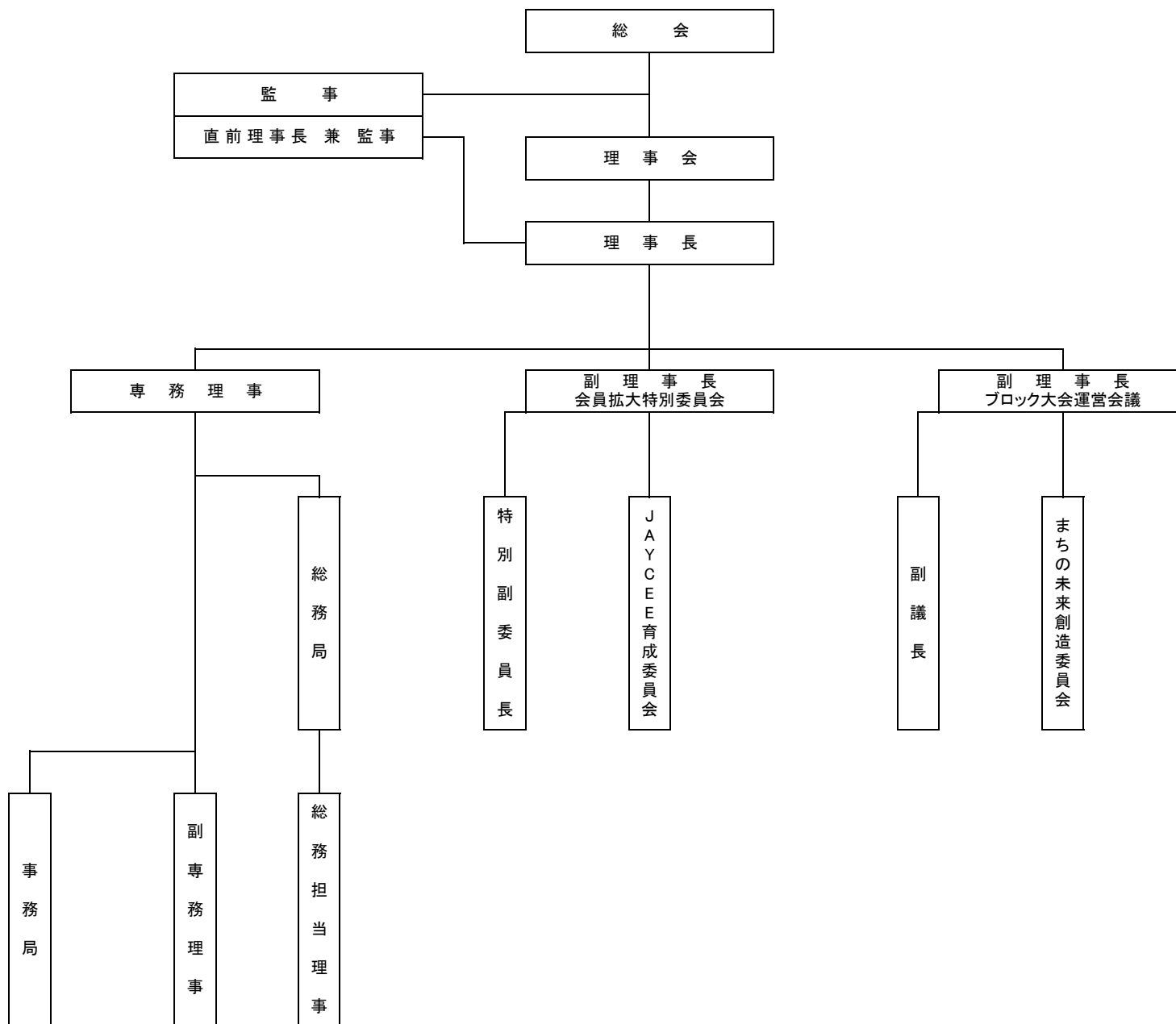


西 暦	LOM 内担当委員会	LOM 外 (出向先) 担当委員会 (日本 JC・関東地区・埼玉ブロック)
2015 年	会員アカデミー委員会 委員	
2016 年	総務委員会 委員	埼玉ブロック 埼玉の運動醸成委員会 委員
2017 年	副専務理事	
2018 年	会員研修委員会 委員 会員拡大特別委員会 副委員長	
2019 年	組織連携特別委員会 副委員長	埼玉ブロック ブロック大会運営委員会 委員
2020 年	総務委員会 委員	埼玉ブロック 事務局次長
2021 年	JAYCEE 研修委員会 委員長	
2022 年	副理事長 中期ビジョン特別委員会 委員長	
2023 年	監事	
2024 年	監事	埼玉ブロック アカデミー委員会 会計幹事
2025 年	総務広報委員会 委員	埼玉ブロック ブロック大会運営委員会 総括監事
2026 年	副理事長	埼玉ブロック ブロック大会運営委員会 副委員長

審議 - 20 一般社団法人川口青年会議所

2027 年度組織図(案)承認に関する件

2027年度一般社団法人川口青年会議所 組織図(案)



参考資料

一般社団法人川口青年会議所 2027 年度理事長所信

第 63 代理事長 伊藤 孝弘

「信念」

～志を紡ぎ、次代を創る～

基本方針

1. 第 57 回埼玉ブロック大会川口大会の実施
2. まちの未来を担う世代の地域参画意識の醸成
3. 持続可能な会員拡大手法の確立
4. 信念を持った JAYCEE の育成
5. 厳格適正な組織運営と世代に合わせた魅力あふれる広報の発信

【はじめに】

川口青年会議所が設立された 1964 年、日本は戦後復興から高度経済成長へと歩みを進め、社会や人々の暮らしが大きく変化し、新たな発展へと踏み出す転換期にありました。しかし、現代の私たちは、少子高齢化や地域社会の担い手不足など、かつてとは異なる社会課題に直面しています。それらは、我々が住み暮らすこのまちでも身近な問題となっており、縮小していく社会の中で、持続可能性を追求する時代へと移り変わっています。

青年会議所の使命は、社会の課題を解決し、持続可能な地域を創ることです。持続可能な地域とは、誰もが地域に愛着を持ち、地域を担う人材が育ち、より良い状態で継承されつづける状態であり、その実現のために、我々は地域全体を巻き込み、川口の魅力を発信する大規模な事業を展開します。我々一人ひとりが力を最大限発揮し、関係諸団体にもご協力をいただきながら、共に地域の課題に取り組み、一体感をもって、「持続可能な豊かなまちの実現」を志し、我々は運動をしつづけます。

【信念】

信念とは、どのような困難にも決して揺るがない行動の軸です。

2027 年度は、一人ひとりが「自らが率先してより良い変化を起こす」という信念を持って行動します。一年を通して果敢に挑戦を重ね、培った経験と想いを余すことなく次代へ継承することで、川口青年会議所はより良いまちの未来のために邁進しつづけられるのです。

川口青年会議所は、62 年という長きにわたり歩みを重ねてまいりました。半世紀を超えて歩みつづけてこられたのは、「明るい豊かな社会の実現」という志のもと、先人たちが「英知」と「勇気」と「情熱」を持って、たゆまぬ研鑽と挑戦を重ね、その経験と想いを継承し、次代を創りつづけてきたからに他なりません。青年会議所の組織は単年度制であり、年度ごとに役割や事業内容は変化します。しかし、現状よりもより良くしようとする想いは、いつの時代も不変です。変化を繰り返しながらも、この不変の想いを次代へと継承してきたことで、志をもった新たなリーダーが生まれ、その志がまた次代へと受け継がれてきました。この循環こそが、川口青年会議所が今日まで歩みつづけられた核となります。

現在、川口青年会議所メンバーの 6 割が入会 3 年未満となります。在籍期間や経験を障害とせず、全てのメンバーがより良いまち、より良い自分を創るという想いをもって行動し、それぞれが地域の、そして組織の未来の担い手であるという当事者意識を育んでいきます。誰しものが信念を持って行動し、目の前の機会を大切にすることで、より良い次代を創ることができます。そして、組織がさらに成長し、まちに影響をもたらす、魅力的な運動を展開することができるのです。

【第 57 回埼玉ブロック大会川口大会の実施】(川口ブランドの創造)(かわぐちびとの創出)(JAYCEE プライドの確立)(We are 川口 JC！)

川口の地にて埼玉ブロック大会が開催されるのは、1970 年度の第 1 回、1991 年度の第 2 回以来 36 年振りとなります。今回、我々は移り行く時代の中で、まちの課題や組織の現状を踏まえ、開催地として手を挙げさせていただきました。川口青年会議所は、代々埼玉ブロック役員を輩出しつづけ、埼玉ブロック協議会との繋がりと、川口青年会議所としての誇りが今日まで受け継がれてきました。埼玉ブロック大会という大きな挑戦に、我々一人ひとりが妥協なく立ち向かい、大会を成功させることで、川口青年会議所としての誇りはさらに大きなものとなって、次代へ継承されます。

現在川口は、地域社会の担い手不足や市民の地域参画意識の低下が課題となっています。我々は、この埼玉ブロック大会開催という千載一遇のチャンスを存分に活かし、まちの魅力を発信することで、市民が地域を愛し、大切にしたい想いを創ります。その想いが、持続可能な豊かなまち川口を実現させると確信しています。

～川口ブランドの創造～

川口には、ものづくり産業をはじめとした地域資産が数多くあります。中でも象徴的なのは、1964 年東京オリンピックの聖火台が、川口の鋳物技術を活かし製作されたことです。そして、現代の川口にも先人より受け継がれてきた技術や魅力あふれる市産品、そして伝統文化が数多く存在します。これらのまちの魅力を本大会に集約し、市内のみならず、市外からの参加者にも発信し、さらに間近で体感できる事業を構築します。身近だ

からこそ出会えなかった気づきを市民へ、新たな出会いと発見を来場者へ提供し、これぞ川口と誇れる「川口ブランド」を創造します。

～かわぐちびとの創出～

我々が住み暮らすこの川口は、住みやすいまちとして市民から支持を得ている一方、市民の地域参画意識の低下や地域社会の担い手不足が、市の課題として指摘されています。この課題に対し、我々は、市民自らが地域の課題を把握し、率先して行動に移し、地域参画意識を高める事業を展開します。まちの未来を担う若い世代にターゲットを定め、事業を通して地域社会の一員であることを自覚してもらい、地域の課題を調査・研究し、自らの構想を発表する機会を提供します。若い世代が地域の課題に真剣に向き合うことで、当事者の成長だけではなく、その姿を見た市民にも意識の変革が起こり、より良いまちにしようと行動する「かわぐちびと」が創出されます。

～JAYCEE プライドの確立～

ブロック大会運営会議には全メンバーが在籍し、開催が近づいた時期にだけ言われたことをやるのではなく、常に大会構築・準備の進捗を話し合い、共有することで、当事者としての意識付けをしてもらいます。委員長、局長を含む役員を、それぞれの大会セクション長として配置し、自分の受け持つ委員会や会議で協議した成果をブロック大会運営会議に持ち寄り、内容を常にブラッシュアップしていきます。副主幹 LOM に対しては、大会成功への想いを共有し、決意を示す締結式を行い、早い段階で協力体制を築きます。その後は、定期的に副主幹 LOM と会議をし、密な関係性の構築と明確な協力依頼を行います。そして、埼玉県内 28 LOM のメンバーに対しては、各地に足を運び、我々の想いを伝え動員に繋がります。ブロック大会に関わる一人ひとりが率先して行動することで、互いに切磋琢磨し、自分たちがまちに必要とされているという認識を持ち、自らの価値を確立する「JAYCEE プライド」を育みます。

～We are 川口 JC！～

広報においては SNS の活用だけでなく、市内外の参加者に、世代に合わせた魅力的な広報手段を用いて、本大会を幅広い世代に周知し、共感を得ます。我々の運動、そして川口青年会議所という組織が市民に広く認知される「We are 川口 JC！」のビジョンのもと、魅力あふれる広報を行います。

我々は総力を挙げて、埼玉ブロック大会川口大会の成功に向けて挑戦します。この大きな挑戦を乗り越えた先で、メンバー一人ひとりが大きく成長し、互いの絆が強く結ばれ、川口青年会議所はより良い組織へと飛躍します。そして、市内の多くの協力者の方々と共に大会を構築し、成功体験を共有することで、地域の担い手が一体となり、持続可能性に溢れる川口を創ります。

【まちの未来を担う世代の地域参画意識の醸成】（かわぐちびとの創出）

川口市では、「未来を創造する人材の育成」を掲げており、学校・家庭・地域が連携し、こどもたちの資質や能力を育むことが求められています。一方で、高校生を対象とした意識調査では、地域活動や市政への参画に対する関心は他のまちづくり分野と比較して高いとはいえません。次代を担う若い世代が地域に関心を持ち、地域の課題を自分事と捉え、自ら行動しなければ持続可能な地域の実現には繋がりません。まちの未来創造委員会は、地域の未来を担う若い世代に、地域社会の一員である自覚を持てる機会を提供し、自らが主体的に関わろうとする地域参画意識を醸成するため、市民として社会をつくる力を育む、「シティズンシップ教育」を軸に事業を展開します。

まず、川口の現状や課題と日々向き合う、行政や地域の担い手から、実際にお話を伺う機会を設けます。学生を対象とし、地域の課題や現状を把握することで、自らも地域の一員であることを意識付けます。その事業を皮切りに、自分の住み暮らす地域の現状や課題を分析し、埼玉ブロック大会川口大会では事業の一環として、その解決策となる政策アイデアを発表する場を提供します。そして、最終的には、自分の住む地域の課題や社会参画に目を向けてから、具体的にどのような意識変革があり、行動を起こしたかを検証する場を設けます。

これらの事業を今後も継続することで、若い世代の地域参画意識が醸成される好循環が生まれます。そして、自らが地域社会の一員としての意識を持ち、まちを良くしたいと思う若い世代が創出されつづけることにより、持続可能な豊かなまちが実現します。

【持続可能な会員拡大手法の確立】（JAYCEE プライドの確立）

会員拡大は最古にして最長の継続事業です。なぜ会員拡大が今日まで途切れずに行われているのか。それは、青年が社会により良い変化をもたらすために、リーダーシップの開発と成長の機会を提供することが青年会議所の使命であるからです。また、メンバー数は組織の力に直結します。我々が川口で運動を起こしつづけるために、拡大の手を止めることはありません。近年、情熱を持った拡大運動により会員数は増加し、昨年に引き続き期首 50 名以上の体制で、本年を迎えることができました。次代にこの組織の力を紡ぐためにも、本年は 17 名の拡大目標を掲げます。

会員数が増加した今だからこそ、一過性ではない持続可能な拡大手法を確立する必要があります。まずは、拡大をメンバー全員で行うという意識醸成のために、それぞれの月で何人の拡大をし、我々が具体的にどのように行動するのかを、理事会の場にて毎月提示していただきます。その翌月には前月の成果を報告するとともに、次月の目標と行動を掲げ、常に走りつづけることで、拡大意識が途切れることなく、運動を行います。そして、年 2 回の拡大例会では、日本青年会議所シニアクラブ拡大支援委員会との繋がりを最大限に活かし、情熱を持った講演会を行い、多くのオブザーバーを情熱の輪に巻き込みます。また、異業種交流を目的とした事業を年 2 回行っていただきます。世代や業種を超えて

一過性ではない、持続的な関係性を生み、我々と参加者のみならず、参加者同士にも繋がりが生まれる、青年経済人を対象とした事業を展開していただきます。また、各委員会・局会議では議事の中に拡大情報の共有を組み込み、持続可能な拡大手法や拡大対象者情報について議論を交わし、実行することで、会全体の拡大意識の向上を図ります。入会体験中のサポートは JAYCEE 育成委員会と連携し、川口青年会議所の価値と魅力を体感してもらい、誰一人取り残さない体制を整えます。様々な角度から事業展開をし、持続可能な拡大手法を一年を通して模索・確立することで、継続的に組織の力は強固なものとなり、より魅力的な運動を起こすことができます。

【信念を持った JAYCEE の育成】(JAYCEE プライドの確立)

青年会議所は多くの機会を提供する団体です。奉仕・修練・友情の3信条のもと、その機会を存分に活かし、メンバーが更なる自己成長を目指せる場を常に提供しつづける必要があります。青年会議所活動を全うするのは並大抵のことではありません。しかし、「自ら率先してより良い変化を起こす」という信念を持って活動し、その想いはやがて行動に現れ、その結果、自己成長へとつながります。そして、一人ひとりが川口青年会議所メンバーとしての誇りを持つことで組織はより強固なものとなります。その想いの実現のために、まずは積極的に活動に参加することが重要です。多くのメンバーが真剣に事業構築する姿を目で見て肌で感じることで、意識が変革されていきます。メンバーの出席率には特にこだわり、委員会内で副委員長を責任者とした、新人サポート体制を構築し、関係性の向上と活動の機会損失をなくすため、メンバーがメンバーを動員する、責任感を育む連絡網を作成・実行していただきます。かつて、川口青年会議所は「設営の川口」と評価されるほどに、厳格な設営をする LOM として定着していました。時代とともに、組織や活動のあり方が変化する中で、今こそその精神を受け継ぎ、一人ひとりが川口青年会議所メンバーとしての誇りを持つことが求められます。そのために、新春祝賀会・親睦会・卒業式・忘年会・じゃがいもゴルフコンペをはじめ、多くの担当事業では規律を大切にし、一人ひとりが責任を持って役割を全うする、緊張感ある設営を行います。厳格という言葉には、事業設営だけが当てはまるわけではありません。JAYCEE である以上、地域を牽引する品格ある青年経済人として、模範となる人物であることが求められます。そのために、入会3年未満のメンバーと、今後入会する新人メンバーには、相手への敬意をはじめ、組織として品格ある行動を示す資料である、JAYCEE 育成マニュアルを作成・配布し、礼節を重んじ、JAYCEE として相応しい行動を学び、実践していただきます。埼玉ブロック大会川口大会では、自ら率先して事業構築に携わり、活動を通じて互いに切磋琢磨し、まさに必要とされているという認識を持ち、自らの価値を確立していただきます。そして、京都会議・サマーコンファレンス・全国大会等に積極的に参加し、LOM だけでは得られない経験と知識を育みます。

JAYCEE 育成委員会が LOM の元気のバロメーターとなり、その活力が川口青年会議

所全体に伝播することで、勢いと存在感のある組織が創られます。

【厳格適正な組織運営と世代に合わせた魅力あふれる広報の発信】(We are 川口 JC！)

・厳格適正な組織運営

総務は LOM の屋台骨です。この根幹が崩れてしまうと組織として成り立たなくなります。予算管理面では適正な予算を組み、常に健全な財政状態で運営をします。

総会の設営においては、総会は LOM の最高決定機関であり、一人ひとりの意見が組織を築き上げることの重要性を徹底周知します。そして全員が当事者意識を持ち、活発かつ建設的な意見が飛び交う場であるために、ベテランメンバーだけでなく、入会 3 年未満の新人メンバーにも議題について真剣に向き合っていただき、積極的に発言をしてもらいます。理事会においては厳格な設営のもと、活発な議論ができる場を常に提供します。また、JC ルームにおける備品は LOM の資産です。今一度、LOM の備品貸し出しルールや取り扱い方法を見直し、適正な管理を徹底します。

また、各事業の資料や、写真・映像は次代にとって川口青年会議所の歴史を知るうえで、重要な資産となります。年内に行われる、全ての事業の資料・写真・映像を月ごとに分類し、JC ルームにアーカイブとして残していただきます。また、埼玉ブロック大会川口大会における、全ての事業資料と写真・映像を、次代に継承できる形でまとめていただきます。

・世代に合わせた魅力あふれる広報の発信

我々は常に地域に根差した運動を続けています。しかし、多くの市民に我々の運動を発信し、周知しなければ我々の想いは伝わりません。運動発信をする上で、ただ事実を羅列するだけでは不十分です。それぞれの事業における理念と、事業成果を市民に魅力的に感じてもらい、共感してもらうことが重要です。そして、我々が市民に広く共感され、魅力的な運動に参画してもらうことで、まちにより大きな影響力をもたらす運動が行えます。

既存の広報手段は継続しつつ、世代に合わせた魅力あふれる広報を実践していただきます。特に埼玉ブロック大会では、多様な世代や、市内のみならず市外からの参加者も集います。様々な広報手段を取り入れつつ、各世代に合わせ、共感される広報発信が必要です。また、魅力あふれる事業の裏側には、その事業を構築している魅力あるメンバーがいます。そして、組織は人で構成されています。魅力ある組織でありつづけるために、メンバーの人となりを定期的に発信します。

一年間の広報活動を通じて、川口青年会議所は、まちの未来を担うリーダーを育て、行動する組織である、というブランディングに繋げ、信頼されつづける組織を創ります。

【おわりに】

私は川口青年会議所に入会して心から良かったと言えます。これまで、様々な困難や課

題にも直面しました。しかし、その時に隣にいたのは同志です。奉仕・修練・友情のどれか一つでも欠けていれば私の成長はありませんでした。一つひとつの行動は、必ず評価に繋がります。その評価は自信に変わります。参加できない時もあると思います。しかし、その間にも頑張っているメンバーがいます。その時に、自分は何をもって貢献できるのか考え、行動に移してください。限られた人間だけがやるのではなく、我々が同じ目線、同じ熱量で運動をすれば乗り越えられないことは何もあります。そして、挑戦することを恐れないでください。運動を展開する上で、決して妥協することなく、常により良くしようと果敢に挑戦することで、結果に繋がらなかったとしても、必ず次に繋がります。我々は挑戦する者の失敗を受け入れ、次の成長へと変えられる団体です。川口青年会議所がチーム一丸となり、かつてない課題を乗り越えた先には、決して一人では味わえない感動と達成感が待っています。

「明るい豊かな社会の実現」という志のもと、「自らが率先して変化を起こす」信念を持って行動し、果敢に挑戦することで自己成長に繋がります。そして、一年を通して培った経験と想いを次代に紡ぐことで、川口青年会議所は今後も発展しつづけ、想いの循環が途切れることのない、持続可能な組織となります。

我々が志を持って展開する運動を地域に広げ、持続可能な豊かなまちを共に築き上げましょう。

2027年度一般社団法人川口青年会議所 役員組織図(案)

☆はスタッフメンバー

